

2

2000.5

社団法人日本作業療法士協会広報誌

Opera

オペラ

レッツ・クリエイト

障害は個性だ、キズはアートだ、

「さをり織り」で本当の自分に出会う

青年海外協力隊



メレンゲが好き、祭りが好き、南の国のこころ豊かな生活にふれる

特集

スペシャル対談(春山 満 × 寺山 久美子)
NITSURU HARDYAMA × KUMIKO TERAYAMA

「私たちは医療・

介護の消費者だ!

介護保険、今こそ

サービスを逆指名しよう

進行性筋ジストロフィーで重度な運動機能障害がありながら、ヘルスケアビジネスの最先端を疾走する春山満氏が寺山久美子会長と語りあった。



SAORI

役者とOT
人間をよりよく知るために
私のキヤッチフレーズは
歌って、踊って、芝居の
できるOT

S N A P . S H O T

これからの
作業療法に
期待するもの

澤村 誠志

～シリーズ～

- 生活支援のアイデア
- いっぱい福祉用具
- 片手でやってみよう



特集
◎

私たちは医療・介護の 消費者だ！介護保険、 今こそサービスを 逆指名しよう

INTERVIEW

進行性筋ジストロフィーで重度な運動機能障害がありながら、ヘルスケアビジネスの最先端を疾走する春山満氏（株式会社ハンディネットワーク・インターナショナル代表取締役）が寺山久美子（作業療法士協会会長）とあるべき医療・介護サービスについて語り合った。

談 対 話

春山 満 × 寺山 久美子

MITSURU HARUYAMA KUMIKO TERAYAMA



介護ビジネスを消費者不在のマーケットにするな

寺山 私どもの作業療法士協会も今年で創立三十五を迎え、二一、六二七名の会員を数えます。七割が女性ですが、需要は多く、会員は引く手あまたの状態です。これからは介護保険の面でも作業療法サービスが利用できるようなれば、と思っております。



春山 僕もこれからはリハビリとしての理学療法より、毎日の生活を支えていく作業療法がもっと成長していかなければいけないと思います。

自分の体験からお話しますと、もともと不動産業を営んでいた僕が、この分野のビジネスを始めようと思ったのは、僕自身が障害者になったことと、もう一

つはいきどおりがあったんです。

昭和五九年に、僕はほとんど歩けない状態になりました。ちょうど日本の医療制度改革の序曲となった年ですね。医療と介護の分断が検討され始め、また、日本ではなんでも病院の保険点数に換算してしまうのを、欧米流の医療の機能分化の方向がやっとなってきた。

MITSURU HARUYAMA

二〇二五年、日本で六十五歳以上の老人が人口の四分の一を超えます。するとこれまで障害者「マイノリティ」だったのに、マジORITYとしての老人の介護が必要になる。いまこの分野は、二〇世紀最後のビジネスチャンスと言われ、介護保険も始まり、お膳立てはそろったように見えますが、僕はいい加減にしろと思っております。

ここには弱い患者はいても、賢いお客さんほどここにもいないじゃないかと。これは消費者不在のマーケットだと思つたんです。一体誰のための制度・保険なのか。与えられるがままで満足、ないしは我慢してしまつて、選択権もないのでは消費者とは呼ばれません。これからは提供する者と提供される者が当たり前の関係に立つ市場に、医療や介護がなつていかなければならないと思うんです。

不治の病を発症、医師と対立する

寺山 ビジネスに携わつていらつしやる方ならではの、医療に対する厳しいご批判だと思います。医は、算術は論外ですが、仁術にしても、患者さんは消費者として対等の立場に立てません。日本で医療に本格的なビジネスの考え方を導入しようという動きが始まったのは、比較的最近なんです。

春山 自分の難病のお話をしますと、二十四歳のときにどうも体の中に筋ジストロフィーのデイスタルタイプという細胞膜を破壊するプログラムが組み込まれていて、その進行を止めることが出来ないらしいとわかつたんです。

二十六歳のときに宣告を受けてガク然としたことは、僕は当時不動産業のオーナーをやつており、これからどうやって生きていこうかというときに、お医者さんたちは色めき立つたんです。治療法もリハビリもないと言いつつながら、僕の病気が非常に珍しくきれいなタイプだから、ぜひ克明に検査させて欲しいと言つたんです。僕は一回きりの人生をこんな所でモルモットになるのはゴメンだ、とキツパリ断つたんです。

それからは自分とのレースです。いずれ歩けなくなる、寝返りも打てなくなる……今では首から下が全廃しています。でもまだしゃべれるし、見れるし、考えられます。体が動かないくらいで人間

の尊厳が失われてたまるかと、残っている機能を百二十パーセント使って生きました。

バラまき福祉を越えて ビジネスチャンスをつかむ

春山 三十歳で結婚したとき、女房がもう一度病院に行こう、「情報を取りに行こう」と言うんです。あなたは難病



の宣告を受けてから仕事だけはガムシヤラにやっているけど、仕事以外は何もなくなつた。私はあなたを介抱するために結婚したんじゃない、とハッキリ言うんですね。あなたは体は不自由だけど、ともに暮らしていくために幸せになつていいはずだ。そのためには病気の情報がない。病院に行けば何か情報があるはずだ、と。これには僕も説得されて二度と行くまいと思つていた病院に

行つたんです。

実はここでとんでもない状況を見て、医療の世界は狂つてるーと思つたんです。医療から介護へというキーワードはすでに出ていて、医療も産業も介護のほうを向いている。ところがお客さんの立場で病院に行くと、そこにはロクな商品も、ロクなサービスもなかつたんです。四年ぶりの病院で、つくづくへんなところだなと思つたのは、あきらかに僕より年下の白衣の青年(理学療法士)に初対面だから敬語でモノをたずねたのに、子どもに対するようなぞんざいな返事の仕方なんです。僕は、思わずその青年を怒鳴りつけましたよ。

「人が敬語でたずねているのに、なんちゅう口の利き方をするんじゃないか、このボケーツ」。青年は真つ青になりました。そこへ集まつてきた人の中には、神経内科部長もおられたんです。僕は「ここでは体、どういう従業員教育をやつてるんじゃない」と、思わず言つてしまつたんです。

さらにこう言つたんです。たしかに私たちは不自由で、医療と介護を求めている。私たちは言われるままにサービスを受け、あなたたちは、私たちの知らないレセプトで満額請求して六十日後に完全現金になつている。あきらかに私たちがお客さんで、あなたたちは従業員じゃないかと。昭和五九年、日本の医療制度がちょっと動くときです。どうもオカシイなと思いつつも、そのワケがわからなかつたんです。ただ僕を決定的にこの分野のビジネスに駆り立てたのは、いよいよ僕

が車椅子を作るときでした。

僕はそれまで、自分のアイデアで作つた特製のツエを使つていたんです。すると理学療法士が「春山さん、このツエはいいですね。うちでもこのツエを作つていいですか」と聞くんですよ。

これはオカシイ。僕はただ自分がどうしたら歩けるか考えて、アイデアを出して作つた。彼らは体の不自由な人にサービスしているのに、いつも二丁ズばかりで、そのうらに隠れたウオツを全然くみ取つてないじゃないか。二丁ズより、こうありたい、こうして欲しいというウオツが全然わかつていないんですよ。

僕が、福祉事務所に車椅子の相談に行くくと、医師の意見書がいたと言われたんです。病院では業者が、あのプサイクな車椅子を持つてきたんです。ふと僕は、その業者が車椅子のオーダー仕様を勝手に書いているのに気がついたので。僕は、こんない加減な判定があるかと怒鳴りつけたんですが、仲裁に入った医師も、病院の指定業者だからと僕に脅しをかけるんです。

僕はそれを聞いて怒り心頭でした。車椅子はこれからの僕の生活道具だから、いいモノを選んで買う権利がある。病院

指定など

という權益に
奉仕するイワレ

はないんです。消費者
に選ぶ権利を与えず、

病院と業者の權益を優先する、これが
医療介護のカラーリです。

もう一つ、その業者が医師の前では借りてきた子猫のようにシユンとしていることです。なるほど介護業者が恐れているのは、医師や病院の事務長、福祉事務所の役人といった、消費者〆お客さんではなく、お客さんをコントロールする人だと納得しました。

僕はシメた！と思ひましたね。福祉先進国の北欧でも補装具は与えたりせず、判定の結果貸すわけです。日本ではすぐタタ同然にあげてしまい、使わなくなると捨てる。ある意味で世界最高水準のバラまき福祉のおかげなんです。

一方、福祉というジャンルに隠されて、多くの人々の豊かになりたい欲望が、消されていく。不自由な人すべてが貧しいわけじゃない。貧しい人は福祉で守り、余力のある人には自費でもつとい

INTERVIEW

いモノがあつていいはずだと思つたとき、これはイケル！。こうして僕は、福祉ビジネスをスタートしたわけです。

寺山 私の存じ上げている多くの障害者の方たちでも、補装具は合わないし粗大ゴミになつてしまふし、選択肢が少ないという苦情もたくさんあつて、心を痛めています。でも、それをビジネスチャンスにしたのは、さすが、先見の明をお持ちでしたね。多くの人たちはブツブツと不満を言つて



介護保険はユーザーが逆指名するチャンスだ

るだけですから……。今は少しずつそうした状況は、変わりつつありますが……

春山 それから2年間みっちりリサーチし、「福祉のデパート」というのを大阪道頓堀に作つたんです。

例えば脳血管障害で倒れて回復する、

若干の生活ができるようになると退院、とここまでではハッピーです。ところが帰つてみると、玄関に上がれない、風呂に入れない、一体どうやって暮らしていこう……。退院後の生活を支えていくには、コンサルティングビジネスがどうしても必要なんです。

スプーン一本からエレベーターまで、一箇所て全部の買い物が出るワンストップ・ショッピング、つまりデパートが必要なんですよ。日本全国にネットを張り、欧米からいいものを仕入れます。その後ハンディネットワークを立ちあげ、オリジナル商品を開発し、現在では病院の経営企画なども多数やらせていただいています。

今までの医療の常識では、もう市場で勝ち残れないんです。訪問介護から訪問リハビリテーション、つまり理学療法から作業療法の時代なのに、健全な作業療法の活用がわかつてない。

僕がアメリカの医療の実情をつぶさに見てきてわかつたのは、日本の医療・介護、理学療法・作業療法は、アメリカより十九年遅れているということなんです。インターネットで情報が取れ、モノが手に入る時代に、十九年前のモノがまかり通っている現状を変えなければいけないんです。まず、理学療法も、作業療法も、もっと海外からダイレクトに情報を入れるべきだと思いますよ。

寺山 冒頭で話されたご自分の医療機関体験ですが、大抵の人はあそこでひっこじやう。ユーザーが主人公だよという姿勢が、日本人には非常に弱い

ですね。ここに私どものテーマもあるんです。介護保険では高齢者が主人公となり、自立して、自分のことは責任をもつてやり、足りないことには声を上げていくことが、医療や介護ビジネスの関係者を気づかせ、改善のための企業努力につながるんですね。

春山 それは保険制度にも落とし穴があつたんです。わるいのは医療関係者だけでなく、タダ同然に湯水のごとく使われてきた医療費にアグラをかけたきた私たち国民が一番わるいんです。自分たちの老いと命を担保するために何が必要か、今こそ逆指名する時です。介護保険はその第一歩なんです。

寺山 本当にそうですね。いろいろ問題はあつても、とにかくスタートにたいというところで、評価したいですね。

春山 これからの日本には優秀な作業療法士が非常に必要になります。数が足りない今は、にわか仕立ての作業療法士でもいいと思うんです。ただし、作業療法士になつた後の本当の勉強を忘れないで欲しいんです。欧米のような本当のセラピーでは、体もさることながら心を支えるセラピーがもっと大事です。本人を支えるセラピーも大事ですが、家族をバックアップするセラピーも大事です。僕は心を支える本当の作業療法士がたくさん育つてくることを望んでいます。

寺山 私が協会ですらあることに話していることを代弁していただいたようで、大変心強く感じました。本日は本当にありがとうございます。

PROFILE

春山 満さん

昭和29年兵庫県に生まれる。24歳より進行性筋ジストロフィーを発症。63年、全国初の福祉のデパート「ハンディ・コープ」を開業。平成7年、「株式会社ハンディネットワーク・インターナショナル」を設立。平成10年、病院・施設の経営企画を専任とする「株式会社ジェイクア」を設立。オリジナル開発商品多数。著書：「いいわけをするな！」（講談社）、「介護保険・何がどう変わるか」（講談社現代新書）他





青年海外協力隊

メレンゲが好き、 祭りが好き、

南の国のまごころ豊かな生活にふれる

作業療法士 浜津路子さんの体験レポート



DOMINICAN REPUBLIC



作業療法士
はまつ みちこ
浜津 路子さん
1971年 福島県生まれ。
ドミニカ共和国からは、
平成11年1月に帰国。

ハイテクに浸った快適な生活を投げうって、ことによると電気もない生活へ飛び込む。激しい競争社会からも数年身を引く。高い専門技術は青年海外協力隊員の必要条件だが、それだけではないはず。今回は浜津路子さんがカリブ海のドミニカ共和国をレポートする。

青年海外協力隊員として96年7月より98年12月までドミニカ共和国において、作業療法及び作業療法士のお手伝いをしてきましたので、ほんの一部ではありますが、ここに紹介させていただきます。

ドミニカ共和国とは？

なんといつでも思い浮かぶのは、野球。でしょうか。メジャーリーグのサミー・ソーサをはじめ、日本でも巨人のガルス、マルティネス、阪神のリベラなど、多くのドミニカ人野球選手が世界で活躍中です。そんな野球が盛んなドミニカ共和国、位置的には中米・カリブ地域に属し、カリブ海に浮かぶイスパニョーラ島に、ハイチと国境を分けています。近隣国にはキューバ、プエルトリコ、ジャマイカがあり、面積は九州ぐらいで人口は760万人、公用語はスペイン語、産業は砂糖・コー



ヒー・カカオ・ニッケル鉱などです。近年では青い海、豊かな自然を生かしたりゾート地など観光業も重要な収入源となつていきます。

人々の暮らしは？

人々の肌の色はいろいろですが、ほとんどの人がコーヒー色の肌をしています。暑い気候のせいか、のんびり屋で話し好き、好奇心旺盛、屈託がなく開放的で、何よりも祭り・歌・踊りが大好きという明るい人々です。音楽はメレンゲやサル

▶首都のサントドミンゴ。
車や店がたくさんみられる。
南国の果物は一年中食べられる。



サといわれるノリのよいリズム感のあるものが好まれています。生活面では首都サントドミンゴはバイク・車・バスが多くスーパーマーケットやマクドナルドがあり、食料・日用品は大体の物は揃えることが出来ますが物価は高いです。一方田舎は物価が安く住みやすい反面、仕事がなく、いまだに交通手段は馬だったり、大家族での生活であったりと首都と田舎の差は激しいです。首都についてドミニカ人の多いところが、ニューヨークといわれるほど、出稼ぎが多くまだまだ経済的には貧しい国です。

電気は通っているのですが、停電が多く断水も日常茶飯時です。はじめは不便でしたが、現地人のように電気がなくてももうそくのあたりでおしゃべりを楽しんだり、外で涼んだり、水はいつも出る時に貯めておくなど、ちよつとし



▶ 国の西部にある田舎にて。人々の明るい笑顔はどこでも続。

た工夫で充分生活できるようになりまし。おかげで今でもバケツ一杯で、シャンプー・洗体・歯磨きとすべて出来る自信があります。

ドミニカ共和国の作業療法

NGO団体であるドミニカリハビリテーション協会という所に配属になりました。そこは国内に17支部をもつ大きな協会で、政府からの一部補助および寄付で賄われています。17支部のうち作業療法のサービスを行っていたのは4支部で、国内において作業療法の知名度は低く、治療器具も少なく、技術も未熟なものでした。作業療法士の養成校もなく、協会におけるフォロワーも不十分で、人が足りなくなると何の知識もない人を働かせたりと改善すべき点が多くみられました。

そして私の活動

活動目的を①協会内の作業療法部門の拡大と強化(技術向上の為の援助)、②作業療法の普及活動(パネル展の開催)の2つにしほりました。まず首都において、作業療法士の治療場面に立ち合ひ、助言したり、私自身が治療することで参考にしてもらいました。要望があった事柄について簡単に講義したり、資料を作成しました。並行して他支部を巡回し状況を把握し、助言・援助を行い、情報を交換しました。また、新しく開設される支部で働く予定の新人作業療法士の研修を行いました。

また、一般の人への理解を広めるために、治療中の患者さんのパネルを作製し、街のショッピングセンター内に展示しました。

感想

長いようで短い現地生活でした。はじめの頃は生活に溶け込むのがやっとで、活動らしいことは、ほとんど出来ませんでした。途中から自分中心にもの考へることをやめ、「変えなくては」とのあせりを捨て、全体がみえるようになった頃から活動が楽しくなりました。現地の人に対してやきもきしたり、腹がたつてケンカもしましたが、終わってみると、教えられたことが多く、どれだけ彼らの明るさ・あたたかさに助けられたか分かりません。すべての友に感謝するとともに、これからドミニカの人々が試行錯誤しながら自分たちの方法をつくり、彼らの国が彼らのスピードで発展していくことを願ってやみません。



▶ 観光客むけのレストランでメレンゲを踊る現地の人。



▶ サントドミンゴ本部の理学療法室。



▶ サントドミンゴ本部の作業療法室。



▶ サンフランシスコ・マコリス支部の明るいリハビリスタッフ。

DOMINICAN
REPUBLIC



レッツ・クリエイティブ

障害は個性だ

キズはアートだ

「さをり織り」で本当の自分に出会う

「さをりひろば」代表 城 英二さんに聞く

SAORI

手織適塾



じょう えいじ
城 英二さん

「さをり織り」の創始者・城みさをの次男として、さをりの国際化に取り組んでいる。株式会社手織研究所代表取締役、手織適塾SAORI塾長、さをりひろば代表、さをり・リーダーズ・コミュニティ理事長、ペリー・スペシャル・アーツ・ジャパン副代表、全国さをり織協同組合常務理事。



日本人は昔から習い事に熱心だった。習字、生け花、三味線……とお師匠さんのもとに通つては、お手本をまねることに精を出した。しかし、お手本通りで果たして自己を表現できるのだろうか。自己表現をなにより大切に「さをり織り」の表現方法を身につけた知的障害者たちが、いまアートの世界で生き生きとはばたいという。今回は「さをり織り」を知るべく、「さをりひろば」の代表・城英二さんをたずねた。

「さをり織り」って何？

私の母親の城みさが、五十七歳のときに始めた手織りの一種です。はや三十年になります。織り機を自分で組み立てて織り始めたのがきっかけです。そして織り上げた自信の帯を、機屋の主人はたて糸が一本抜けているからキズモノだと言った。母親は模様

のつもりだったんですけどね。ここが大事です。たて糸が一本抜けているのを、キズと思うか、模様と思うか。次に、母親はたて糸をいっ

ばいとばしたキズだらけの帯を織ったんです。そして、心齋橋の老舗の帯屋はこれはずいぶん、おもしろい帯だと感心したんですね。

キズととるか、模様ととるかはその人の考え次第です。ここに「さをり」の原点があります。障害も同じです。

のつもりだったんですけどね。





キズととれば、直さんならんという発想で訓練することになります。私たちは、障害という模様のおもしろさに気づいてその個性をどんどん伸ばしていきたいといういき方なんです。

「さをり織り」が障害者と出会う

たまたま「さをり」を一緒に楽しむ仲間の中に障害をもった方々が大勢いらっしやるということと、私が彼らとつき合ったおかげで今の私があるということ。私たちが彼らから学んだことの方がいっぱいあるんで、私たちが彼らに何かをする、訓練するとかいった認識はもっていないんです。「さをり」を学びにくる一般の主婦の方々より理解が遅いぶんだけ、いいねに教えることはあっても、それは彼ら一人ひとりの自己表現、自己実現を手助けしているにすぎないんです。実際彼らのもっている天才的感性にはいつも驚かされるんですよ。



手織適塾 (大阪教室)

「さをり織り」の心を表現する

城みさをが「さをり」を始めたとき自分に出会うことが人生にとって一番大事なことだという考えが基本にありました。人から形を教わって、これはいい物だからまねしなさいとかいう指導じやなくて、一人ひとりが自分と出会う喜びをもつことがすべてに優先するんだという発想で「さをり」を続けてきたわけですね。布を織るんじゃなくて、自分を織るという意識をもつことです。

そういう考えがおもしろいといって共鳴する人たちが集まって、「さをりひろば」が始まったわけです。お花や書道といった世間一般の習い事では、まず形から入っていく。先生のお手本通りが上手で、お手本から離れるほど下手という…「さをり」はこれを真つ向から否定します。そんなやり方では技術的にはレベルアッ

プするかもしれませんが、自分には決して出会えないんです。モノとか形を指しているけれども、自分の内面を見つめていない。そこからは本当の喜びは生まれません。

常識というお手本は、本当の自分とは違う私たちの外側のガードのようなものです。だから常識とか知的なものにしばられた私たちより、そうしたものにしばられることのない障害者のほうが、私たちが目指している理想的な表現が出来ることになるんです。

■大阪市の「さをりひろば」から日本全国に広がった「さをり織り」は、海外からも注目の的である。数々の国連主催の大会やワークショップ、ファッションショーなどに参加。中でも一九九九年五月のアジア「太平洋フェスティバル」(OSAKA'99)での開会式での展示は強烈な印象を与えた。



作業療法の原点に



兵庫県立のじぎく療育センター
作業療法士 山脇 茂美さん

私たちが月一回、作業療法で行う「さをりクラブ」を始めて、五年になります。メンバーは、地域の作業所通所者と、地域の在宅者、外来児(者)です。近隣のボランティア三名の協力も得て、交流と母子お互いの自立を目標に、インターネット、陶芸、絵画などの活動も行っています。「刺激と自発性が人を育てる。その助けをすればよい」という「さをり」のポリシーは、作業療法の原点であり、子育て(療育)の根幹です。自己解放の「さをり」は、現代社会にマッチしており、重度障害のある方も自助具などの使用で織ることが出来ます。皆さんも、それぞれの地域で「さをり」を始めませんか。



SNAPSHOT

私のキャッチフレーズは 歌って、踊って、芝居の できるOT

よしだ あや
吉田 文さん

藍野医療福祉専門学校
作業療法学科 専任教官

演劇歴17年、OT歴は13年。現在、
学校で学生に教えながら年2回の
公演をこなす。

2000年からは創立時からのメ
ンバーである劇団「もぶ」の代表
も務めている。

役者のときは「詩生(しき)」
作者のときは「風 蓮子(ふうれんこ)」
OTのときは「吉田 文(よしだあや)」



芝居を始めたきっかけは？

高校三年のとき、演劇部の友人が卒業後に旗揚げするという劇団(「もぶ」)に誘われたんです。受験勉強と並行して、一年後の旗揚げ公演に向けた役者修行を開始したわけです。デビューは「青い鳥」の犬の役。その後は少年の役ばかりでしたが、最近になって女性役づいていきます。謎の美人ジャズシンガーとか、演じてみたいですね。現実にはない自分を表現するのって楽しいですよ。

劇団の運営、芝居のテーマは？

「もぶ」は七、八人の小さな所帯で全員女性。みんなでアイデアを出し、オリジナルの脚本を書き、お互いに演出のダメを出し合い、それを代表者がまとめていくといった進め方です。

やりたいテーマがどんどんふくらんで、企画の段階が一番ワクワクします。でも現実には予算や時間、演技力などの問題が続出。それらを二つずつクリアして、この世界を作り上げたときの満足感は病みつきになります。

見終わった人が「明日もがんばろう」と元気になれる芝居を目指しています。設定はSF、昔話、現代ものとテーマを表現できればなんでも使います。きつと誰もが「あなたはあなたでOKだよ」と言ってもらいたいです。それを芝居という生きた人間の関係の中で伝えたいければ、と思います。

役者とOTと 人間をよりよく 知るために

作業療法士

OTと芝居の共通点は？

作業療法士は作業療法の過程で、対象者とともに自分を理解することが大切なんです。作業療法士が対象者に与える影響、また対象者が作業療法士に与える影響という双方向の関係を理解することで、より治療的な環境を作り出せるんです。これは芝居で自分の役を理解することが、他の役者との関係の中でしかありえず、それが自然に演じられればより感動を与える芝居ができること、とてもよく似ています。

また、OTでは対象者の対人交流や作業活動を観察することで対象者を理解しようとしています。芝居の役作りでも、その役柄の心理を理解して演じる方向と、逆に行動しているうちに役の気持ちかわかるという二つの面があります。結局、OTも芝居も人間をよく知り、それを追求していくところは同じなんです。

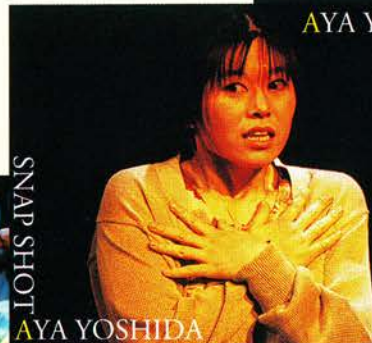
今後やってみたいことは？

縁あってパーキンソン病の方の書いた詩集を朗読する機会に恵まれたんですが、芝居以外にもこうした活動は続けていきたいし、詩の朗読のライブや音楽との共演などにも挑戦してみたいと思っています。OTの方では、アニマルセラピーに関心を持っています。動物や自然の力を人間の健康のためにもっと役立てられないか、研究を続けていくつもりです。



AYA YOSHIDA

SNAPSHOT



SNAPSHOT

AYA YOSHIDA



片手で
やってみよう

2

手を切るなどケガをした時、困った経験は
ありませんか？そんな時のちょっとした
アイデアを紹介します。

日々の生活の中で洗濯は
欠かせない行為です。普段、
私達は何気なく干してい
ますが、片手で、となると
どうすればいいやら・・・
あなたは片手で、どのよう
に干しますか？

どうやって ● 干すの

■右の図のように、
くつ下を干すとき
親指と人差し指で洗濯ばさみを
つまみ、広げているすきに、
他の指で持っていたくつ下を
すばやく入れて・・・
なかなか難しいものです。



ここからチャレンジ! さあ、やってみよう!

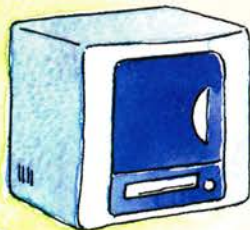
1 洗濯ばさみを
ひもでつなぐ
2つの洗濯ばさみを
ひもでつないでおきます。

2 洗濯物をはさむ
洗濯ばさみの一方で
洗濯物をはさみます。

3 もう一方でつるす
もう一方の洗濯ばさみで物干しを
はさみつるします。

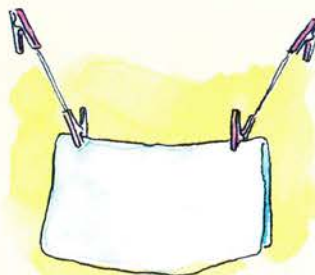
そのほかにもこんな方法が・・・

※お日様にあてた方が
気持ちがいい! という人は
1〜3の手順で
試してみてください。



●現代には乾燥機という
便利なものが・・・

例えば・・・



※例えば、チャレンジ
1〜3の手順で洗濯ばさみを
二つ使えばタオルも干せます。



思わず使ってみたくなる、 快適生活を 支援する用具たち

ふだん何気なくできていることが、障害をもつことで困難なものに変わる場合があります。障害者の生活を支援するアイデアいっぱいの福祉用具には、開発した人々のひらめきとにより愛情がこもっています。ここでは、だれでも思わず使ってみたくなる、そんな便利グッズを選んでみました。



例えば!

●セバレーターのカバーの上にフルーツを置けば、ジュースになります。

【シトラスカッター パックリ】

厚い皮をむいていつも苦労しているグレープフルーツなどには最適。フルーツを半分に切り、芯取り器で芯を取り、フルーツを本体にのせます。その上にカバーをのせ、いっぱい回すと、摩訶不思議!!フルーツがばらばらにされ、取り皿にはフルーツの中身だけ。

皮をむく必要がなく、手が汚れません。

¥1,659

使用方法



①フルーツを半分に切り、芯抜きで芯を取り除きます。この時、芯抜は果実の中心に、回すように突っ込みます。



②フルーツの片方を、セバレーターに乗せ、ゆっくり押しします。

※ボウルの上にカッターとセバレーターを取り付けます。この時、カッターがセバレーターの弓の下に来る位置に合わせます。



③セバレーターの上にカバーを置き、まわしていきます。



④フルーツが食べやすくバラされ、盛り付けの準備も完了です。

ア い っ ぱ い の 福 祉 用 具

【クルクル皮むき器】

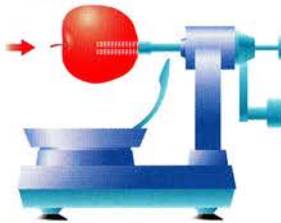
丸くてむくのに面倒なりんごやなしなどをスピーディーにむいてくれる便利品。中央のホルダーに果実を差し込み、ハンドルをまわすと、クルクルと刃物が回りだし、あら!!びっくり!?

皮を次々にむき始めてくれます。むいた後、ハンドル部分のボタンを押すと、果実が簡単に取れます。今まで、りんごの皮むきで苦労された方にはぜひ、この一品を!

¥2,800



使用方法



①平らなテーブルの上に本品を置きます。ハンドルを右に回し、回転軸の下に回転刃をもってきて下さい。果実を回転軸の根元までしっかりと差し込みます。



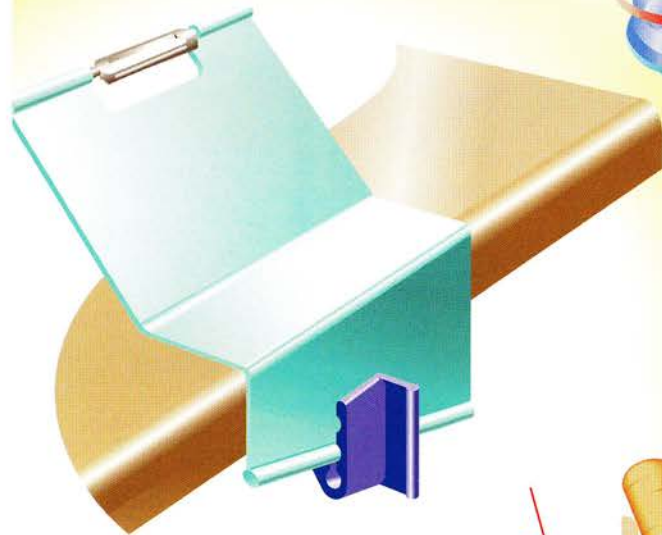
②手で回転皿を押さえないようにして本体を押さえ、右回りに回転させます。



③回転刃が回りきるまでハンドルを右回りに回転し続け、回転刃を回転軸の下に戻して下さい。



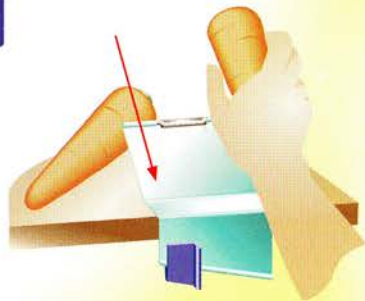
④ボタンを押して果実を押し出して下さい。



【にんじん用皮むき器】

にんじん、きゅうりなど長くて丸い野菜をむくには便利な一品。刃物に野菜を軽く置いて手前に引くだけで皮がむけます。固定バーはスライド式でテーブルや台に簡単に取り付けられます。

¥6,900



【ジャガイモ用皮むき器】

形がぼこぼこしていて、包丁以外だとなかなかむきづらいジャガイモなどにはこれ!

底にはすべり止めもついております。片手でも簡単に皮がむけます。

¥7,700



生活 支援 の アイ デイ

これからの作業療法に 期待するもの

私の作業療法との最初の出会いは、四十年前に米国UCLAの小児切断クリニックでの義手訓練で、義手の製作技術とともに、作業療法の重要性を学んだ時でした。帰国後、切断者のリハビリテーションをライフワークとして取り組み、昭和三十三年頃より、兵庫県下の身体障害者の巡回診療を担当いたしました。この相談の場所で、障害のある多くの人々から学んだことは、リハビリテーションサービスは医療だけではなく、住宅、仕事、二十四時間のケアサービス、そして、バリアフリーのまちづくり、と総合的なものでないとニーズに合わないということでした。この思いを実現するために、昭和三十八年に、現在の総合リハビリテーションセンターを企画し、その夢が実現したのが昭和四十四年でした。

作業療法の主たる役割が、地域の障害のある人々の生活を支援することである、と私が感じはじめたのは、ISPO（国際義肢装具協会）の仕事に関係し、海外の地域で活

動する多くの作業療法士に出会った時からです。二十年前になりますが、ロンドンの社会サービスセンターを訪れた時、住宅改造、福祉用具のサービスに携わっていたのが作業療法士でした。当時、わが国では保健、医療、福祉の連携という言葉はそれほど一般的ではなかったために、福祉サイドで医療職として活動している姿に強い衝撃を受けました。その後、毎年のように英国を初め、ヨーロッパ諸国の地域を訪れ、地域の生活を支援する作業療法の重要性を学んで参りました。特に、驚いたことは、地域で活動している作業療法士の多さでした。十五年前にデンマークでは、同じ人口を持つ兵庫県と比較して、十五倍の数の作業療法士がすでに活動していました。その真偽を確かめるために、グラフィドサクス（人口六万人）を歩いてみましたところ、四十人の作業療法士が地域のリハビリテーションセンター、デイセンター、テクノエイドセンター、精神病クリニックや老人施設などで、地域の障害者や高齢

者を支える中核的存在として働いていることがわかりました。

わが国の作業療法士の卒前、卒後カリキュラムを見ると、あまりにも運動機能、認知機能、精神機能、感覚機能の発達促進、改善、維持などサイエンスに偏っている感じがしてなりません。作業療法士の理論的背景として、運動コントロール、運動学、神経生理学、心理学などが重要であることは当然です。しかし、障害を持つて悩んでいる人々を、地域のなかで支えていくひたむきな姿を、わが国のこれからの作業療法士の皆さんに期待したいと思います。特に、作業療法士が医療と社会福祉サービスとのネットワークの中心的存在であつて欲しいと思います。

今回の介護保険法では、訪問リハは訪問看護のなかに埋没してしまいました。五年後の改正に向かって、訪問、通所リハビリテーションの要として、作業療法士協会が実践成果を踏まえて、具体的な提案をされることを期待しております。



兵庫県立総合リハビリテーションセンター
所長 澤村 誠志さん
(日本リハビリテーション病院・施設協会会長)

Profile

1956年、神戸大学整形外科入局。切断者のリハビリテーションをライフワークとする。米国UCLAの義肢研修を経て、1960年より、兵庫県身体障害者更生相談所の巡回移動相談を担当し、障害のある人々から多くを学び、兵庫県で総合リハビリテーションセンターの設立を企画。1969年、リハビリセンターを開設、現在に至る。1974年、ISPO（国際義肢装具協会）の第1回世界会議から、アジア地域の国際コンサルタントを担当。理事、副会長を経て、1989年、神戸でISPO世界会議を開催。1995年から1998年まで会長を務め、アジア開発途上国支援のための義肢装具センター設立に尽力を尽くす。同時に、1992年より、日本リハビリテーション病院・施設協会会長としての職に就き、地域リハビリテーション活動の底辺の拡大に努力。また、同年、日本リハビリテーション医学会会長に就任。1997年より、福祉のまちづくり研究会副会長就任。2000年7月には、第28回日本職業リハビリテーション学会会長を務める。



パンフレットのご案内

私たちと共にあゆみましょう。

■お申し込み
日本作業療法士協会(事務局)
☎03-5826-7871

「協会パンフレットをご活用ください。」

パンフレットは写真の「作業療法士ガイド」「作業療法ガイドミニ版」「暮らしを支える作業療法」「生活を支える作業療法」「作業療法士の福祉機器や住宅改造への取り組み」の5種類があります。作業療法の啓蒙活動にご活用ください。お申し込みは協会事務局まで。今後も順次、種類を増やしてまいります。

■日本作業療法士協会
広報誌「Opera」創刊号

高齢化社会の医療・福祉・保健サービスの向上を目指して

(社)日本作業療法士協会は、国家有資格者である作業療法士からなる職能団体で、昭和41年9月に結成されました。昭和47年に世界作業療法連盟(WFOT)に加入し、昭和56年には厚生省より公益法人として認可されました。

当協会は、作業療法士の学術研鑽ならび人格資質の向上に努めながら、作業療法の普及・発展を図るとともに、医療と福祉の向上、国民の健康の発展に寄与することを目的としています。

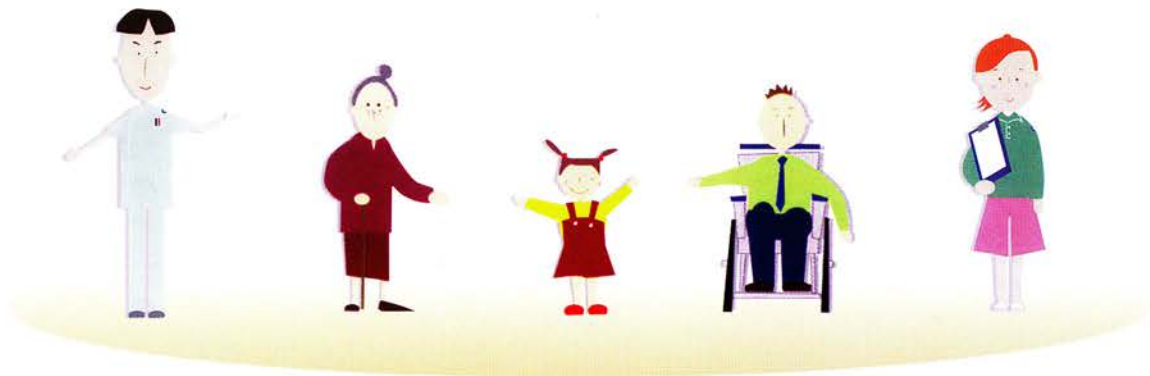
作業療法士は、乳幼児から老人にいたるすべての人々で、身体または精神に障害がある人や、将来、障害が予想される人に、医療ばかりでなく、福祉・保健領域にわたり幅広いサービスを提供します。作業療法とは、身体・精神の諸機能の回復や維持・開発をおこなうために、作業活動を用いて治療・訓練・指導および援助することをいいます。また、それぞれの人にあった福祉用具の選定や各種の福祉サービスの紹介もおこないます。21世紀前半の高齢化社会に向けて、作業療法の活動する場は、病院から地域、医療から福祉の場へと大きく広がっています。介護保険が導入され、高齢者のライフプランニングを含め、障害者だけでなくその家族がよりよい生活をするためのコーディネーターです。

また、青年海外協力隊派遣の推進をし発展途上国の医療・福祉の発展に貢献したり、国内の各障害者団体を支援しています。

ノーマライゼーションが叫ばれて、数年が経過します。21世紀は障害者にとって、よりよい社会となるでしょう。障害のあるなしにかかわらず、よりよい社会になるために、我われ作業療法士は援助していきます。

こころ豊かに生き生きと

作業療法って、ご存じですか？



作業療法とは、高齢の方や障害のある方が住みなれた地域で生き生きと生活していくために、さまざまな作業活動を通し、諸能力の回復・維持を援助するリハビリテーションの方法です。作業療法士は、一般病院、精神病院、リハビリテーションセンターや小児の通園施設、老人保健施設、在宅介護支援センター、福祉事務所、養護学校など、医療・保健・福祉・教育などの各分野で活躍しています。

●OTとは、

作業療法 (Occupational Therapy)

作業療法士 (Occupational Therapist) の略です。

JAPAN 社団法人
日本作業療法士協会

JAPANESE ASSOCIATION OF OCCUPATIONAL THERAPISTS

事務局／東京都台東区寿1-5-9 盛光伸光ビル
TEL:03 (5826) 7871 FAX:03 (5826) 7872
ホームページアドレス <http://www.jaot.or.jp>

Opera

(社)日本作業療法士協会が発行するPR誌Operaは、ラテン語で「作業」を意味します。明るい語感にふさわしく、作業療法周辺の面白くてためになる読み物・インタビューによる親しみやすい誌面づくりをめざします。